

科目番号	37014	分類	助産学実習	履修者	助産学専攻科	学年	1
科目名	助産学実習 I (分娩介助実習) Clinical Practice in Midwifery						1
							配当セメスター 前期・後期
担当者	米山万里枝 / 和田佳子 / 島田祥子 /古川奈緒子 / 前田のぞみ/他	区分	必修	単位	6	時間数	270
講義の目標および概要							
<p>妊産褥婦・新生児について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断を行い、立案した計画に沿って、対象者の分娩介助およびケアを実践する。さらに提供した助産を客観的に評価し、自己の課題を明らかにすることで、次の助産に活かしていく。同時に短期継続事例の受け持ちを通して、分娩期から産褥・新生児期まで継続した、個別的な援助を提供する。</p>							
授 業 計 画							
実習目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦・新生児について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断ができる。 2. 助産診断に基づいて計画を立案し、対象者の分娩介助およびケアが提供できる。 3. 提供した助産を客観的に評価し、自己の課題を明らかにすることで、次の助産に活かすことができる。 4. 短期継続事例の受け持ちを通して、分娩期から産褥・新生児期まで継続した、個別的な援助を提供できる。 							
実習内容							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 産婦を受け持ち、助産過程の展開を用いて正常分娩の介助を10例程度実践する（長期継続事例含む）。 2. 短期継続事例として、分娩期から産褥・新生児期までの受け持ちを、2例程度実施する。 							
実習の展開方法							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産婦を分娩第1期から受け持ち、入院時の援助・分娩各期の観察及びケア(分娩介助含む)・褥室への移送・分娩後2時間後の新生児の健康診査、状況に応じて、退院時までの母児のケアを行う。 2. 受け持ち介助実習中に受け持ち産婦がいない時は、間接介助の待ち時間等を利用して、今まで受け持った産婦へのケア(分娩の振り返り、産褥・新生児へのケア等)に入る。実習内容については臨地実習指導者と相談の上決定し、実習計画の発表、実習内容調整・報告をしながら、自主的にケアに入る。 3. 受け持ち対象者が異常に移行した場合については、臨地実習指導者の指示に従い、直接的ケアは中断し見学とする。受け持ち対象者に行われている援助について見学を通して学ぶ。終了後、臨地実習指導者、そして教員と振り返りを行い、その診断や行われていた援助について整理する。 4. 受け持ち産婦の4例目・7例目・最終例を目安に、評価表を用い、段階的な到達目標に照らし合わせた振り返りを教員と共に行い、自己の課題あるいは目標を明確にする。 							
成績評価の方法	実習への出席状態、助産過程の展開・実践状況や態度、実習記録内容、分娩介助内容などから総合的に評価する						
テキスト	実習要項、資料配布等にて提示						
参考図書	日本助産診断・実践研究会編：実践マタニティ診断 第4版 (B5版) 医学書院 (ISBN: 978-4-260-02493-8) 日本助産診断・実践研究会編：マタニティ診断ガイドブック 第5版 (B6版) 医学書院 (ISBN: 978-4-260-02445-7)						
備考	臨地実習は学内で学習したことを実践する場です。自分の努力の成果が試されるところです。自分の個性も出ます。主体的な学習を行うことを期待します。						